



❶ オープニングセレモニー(左上から、主催者の日本観光振興協会 会長 荻田正信、内閣総理大臣石破茂氏(ビデオメッセージ)、来賓として挨拶する国土交通政務官 吉井章氏／WELCOME RECEPTION(前内閣総理大臣、衆議院議員菅義偉氏) ❷ オープニングセレモニーのテープカット ❸ 第9回「ジャパン・ツーリズム・アワード」表彰式 ❹ WELCOME RECEPTION(左上から、復興大臣 中部国際空港 拡充議員連盟 会長 伊藤忠彦氏、❺ 愛知県知事 大村秀章氏、❻ TEJ2025 愛知・中部北陸スペシャル・サポーター 瀬戸朝香さん、❼ 躍動感あふれるステージ「にっぽん真ん中祭り『常笑』」)

26日スケジュール

10:00～11:20 Aichi Sky Expo L3・L5会議室

国内観光シンポジウム(日本観光振興協会)
「フェーズフリーで進化する観光—安心と豊かさが築く次世代のデザイン」

12:10～13:30 Aichi Sky Expo L3・L5会議室

海外旅行シンポジウム(日本旅行業協会)
「セントレアからいかにして日本人海外渡航者を増やしていくのか」

14:20～15:40 Aichi Sky Expo L3・L5会議室

インバウンドシンポジウム(日本政府観光局(JNTO))
「地域の多様な食の力を活用したガストロノミー・ツーリズム」

16:30～17:50 Aichi Sky Expo L3・L5会議室

休み方改革シンポジウム(全国知事会「休み方改革プロジェクトチーム」／愛知県)
「『休み方改革』で日本の観光を変える!」

中部北陸、地域連携の潜在力を鮮明にアピール 観光多様化や人材投資でツーリズムの課題解決を図る

「ツーリズムEXPOジャパン2025 愛知・中部北陸」初日となった25日。多彩な観光資源と充実した交通網がつながり、広域観光の拠点として注目される愛知県での初開催に国内外の関心は高く、多数の業界関係者が訪れた。TEJカンファレンスでは、各地域が恩恵を受けられる観光産業の多様化に向けてキーパーソンたちが将来像を語り、展示商談会では活発なBtoB交流が行われた。

総合テーマは「旅は“知”の再発見」。高橋広行TEJ実行委員長は記者会見で「アドベンチャーツーリズムやSDGsといったテーマ性の強い旅を通じて、新たな需要創造につなげていく」と力を込め、回復途上にある海外旅行の活性化に向けてセントレアを擁する中部圏が起爆剤になってほしいとの期待感も示した。

オープニングセレモニーでは、国土交通大臣政務官の吉井章氏が「自然文化の保全と観光との両立が図られるよう、地方誘客促進とオーバーツーリズム解消に取り組む」との方針を強調。ビデオメッセージを寄せた石破茂首相は、中部圏9県共同ブースにも触れつつ、「観光は地方創生2.0の観点からも地域の根幹的な産業。地域間の連携も重要だ」とあらためて訴えた。

基調講演は日本のアニメーション文化の旗手であ

り、愛・地球博公園のジブリパークなど世界中の観光客を魅了しているスタジオジブリの代表取締役副社長・中島清文氏が登壇。「ジブリパークは愛知の人の思い出の場所の跡地であり、もう一度、子供のころに戻り、そして世界中の人がもう一度ジブリ作品を思い出す場所にしたい」となど、資源再生や様々な文化との複合化によって地域が輝くヒントをもたらした。

今、日本の観光産業はインバウンドを中心に活況に沸く一方、地域格差、人材不足、オーバーツーリズムなどが深刻化している。課題は他国・地域も共通で、第8回TEJ観光大臣会合は「地域のさらなる変革には、人材やDX、インフラなどへの投資が不可欠で、持続可能な観光産業の未来につながる」との総意を提言した。

会場では、「VISIT JAPAN トラベル&MICEマート2025」「トラベルソリューション展2025」も合同・同時開催。日本のものづくりの価値をはじめ、ビジネスチャンスを模索する動きが目立った。

今回のTEJは中部北陸の知名度を高めるビジネスネットワーキングの場でもある。交流事業「WELCOME RECEPTION」は「にっぽん真ん中祭り『常笑』」のステージや名古屋グルメなど地方色豊かなコンテンツで会場を沸かせた。

基調講演 | 迷子になろうよ、いっしょに。



株式会社スタジオジブリ
代表取締役副社長
中島 清文 氏

ジブリ流テーマパークのつくり方
“美術館”らしからぬジブリ美術館

2001年に開館したジブリ美術館は、社員アニメーターの高齢化対策をきっかけに生まれた企画だった。彼らのために物販事業の強化を目指し、集客効果がある施設としてショップで物販もできる美術館をつくった。1997年公開の『もののけ姫』の完成をもって宮崎駿監督が引退宣言し、新事業が必要だったという事情もあった。

既存の美術館は硬いイメージの現代建築が多く、順路に沿って進む。来館者は美大生や美術愛好家が主で客数は少ない。一方、ジブリ美術館は真逆で、木材を多用し温かみのある建物に光が差す構造となっている。順路はなく迷路のようで解説も極力排除し、「感じる」ことを重視。運営に当たっては、子どものための美術館、ものづくりを体感できる場所、自然との共生を心がけることを基本に据えた。1日2400人の事前予約制とし快適な空間の提供に努めた。しかしインバウンドの急増で2400人規模では受け止めきれなくなった頃に、ジブリパークの構想が浮上した。

理想はNYやロンドンの都市公園

宮崎監督が2013年に再び引退宣言し、制作部門を解散。映画をつくらないジブリが何をすべきか問われていた頃、複数のテーマパーク構想が持ち込まれた。その中で、2005年愛知万博で映画『となりのトトロ』にちなんだパビリオン「サツキとメイの家」を建てたことで縁が繋がり、愛・地球博記念公園の再整備事業としてジブリパークの構想が具体化。愛知県の子どもたちが一度は訪れ、思い出として話題を共有できる場所をつくりたい。そう考えて愛知万博跡地への立地を決めた。理想はNYセントラルパークや英国ハイドパークのような、観光客も訪れる都市公園だ。

2022年の第1期オープンから間もなく3年が経つが、ジブリ美術館との最大の違いは集客規模。美術館は年間60万人でパークはその3倍。美術館は訪日客が35%だが、それがなくてもやっていける規模感で、巨大な首都圏の商圈を支えた。一方、ジブリパークは規模が大きく後背地の人口にも限りがあり、観光地として首都圏市場や訪日客を獲得し続ける必要があると考えている。

第8回 TEJ 観光大臣会合



持続可能な未来へ新たな変革期に
世界の観光トップが愛知に集結

国連が「持続可能な開発目標 (SDGs)」を採択してから10年目を迎えた今年、第8回 TEJ 観光大臣会合には世界7カ国の観光行政トップと6つの国際機関代表が参加し、持続可能な未来につながる「地域の変革」について議論した。世界観光機関 (UN Tourism) のエグゼクティブ・ディレクター、ゾリツァ・ウロセヴィック氏は「世界の観光産業は回復し、今は新たな変革期に入っている」と話し、変革を後押しする人材やインフラへの投資、持続可能でインクルーシブな発展に資するデスティネーションの多様化やDXを呼びかけた。同会合のテーマの一つとなった、デスティネーションの多様性の議論を中心に各氏のコメントを紹介する。



世界観光機関/エグゼクティブ・ディレクター
ゾリツァ・ウロセヴィック 氏

ウェルカムメッセージ



官民の強固なパートナーシップが成長促す
世界旅行ツーリズム協議会(WTTC) アジア地域部長
サラ・ワン 氏

「2035年までの年平均成長率は3.5%と、観光は他産業を上回る勢いで拡大し、同時に炭素強度(売上当たりの排出ガス量)は少しずつ減っている。だが課題も多い。ツーリズムに関わるすべてのコミュニティ、伝統や価値、自然環境を守りながらの成長を目指す我々にとって、本日の会合は、非常に心強い対話の場だ」(ジュリア・シンブソン CEO) とのビデオメッセージにある通り、官民の強固なパートナーシップは、持続可能かつ包摂性のあるツーリズムの成長に不可欠だ。2025年に観光がGDPの8%を占める見込みである日本はその好例だ。ツーリズムをより良い未来実現の力にしよう。

モデレーター



最適なバランス確保が成長持続につながる
株式会社コネクトワールドワイド・ジャパン 代表取締役
マージョリー・デューイ 氏

世界各国で、「持続可能な開発目標 (SDGs)」を2030年までに達成するべく、17項目にわたる共通のチャレンジに取り組んでいるが、持続可能な観光をマネジメントするためのカギが「変革」であることは、すでに認識されている通りだ。地域の環境、経済、投資、人材、デジタルイノベーション、地域ネットワーク、社会的・文化的要素など、多くの領域に関わる問題だ。最適なバランスを探り出し、これを保つことが最も重要であり、長期的に安定した地域の成長継続に欠かせない。



ジャイサルメール城

ラジャスタン州 (インド)
Incredibly stunning!



Department of Tourism, Government of Rajasthan
www.tourism.rajasthan.gov.in | Follow us

激変する地域観光 ～地域連携戦略と人材育成



観光地の多様化と地域間の協力で持続可能な観光へ

カンボジア王国
観光大臣
フオット・ハク 氏

観光地の多様化が求められている。観光資源を多面的に活用し、観光客にバランスの取れた体験を提供することで、観光客の流れを分散させ、世界遺産の保護や地域社会への経済効果の公平な還元を目指す。そのためには、インフラ投資や地域社会の参加、官民連携による地域間連携のとれた新たな観光ルート開発が不可欠だ。さらに近隣諸国と協力し、多国間観光ルートの推進や観光基準の調和、人材育成、デジタル活用に関する知識共有にも取り組んでいく。



シルクロードに隠された知られざる地方の魅力

ウズベキスタン共和国
エコロジー・環境保護・気候変動大臣
アジズ・アブドゥハキモフ 氏

シルクロードの国、ウズベキスタンには年間1000万人の外国人旅行者が、30億USドル以上の収益と数十万人の雇用をもたらしている。ビザの自由化、交通網の拡充、新しい観光地の開発などの成果とも言えるが、ユネスコの世界遺産だけでなく、地方の自然と小さな村の生活文化などの魅力を広めたい。サステナブルな観光キャンペーン「UzStainable」、地域への貢献などバランスのとれた観光戦略「ウズベキスタン2030」を推進していく。



持続可能な「意義ある観光」に向けて

太平洋アジア観光協会（PATA）
会長
ピーター・シモン 氏

観光の多様化や資源開発には、供給と需要の両面の理解が不可欠だ。PATAは「観光資産マッピング」を通じ、地域の文化・自然資源の独自性を明確化し、各国の適切な市場対応を支援している。またオーバーツーリズムや持続可能性の課題の原因は観光客数に偏る傾向にあると考え、「意義のある観光」という新しいコンセプトに取り組んでいる。環境や経済への影響を正しく評価する新たなKPIを導入することで、地域全体を見据えた持続可能な観光戦略の推進を目指している。



変化する旅行市場の価値観 地域と業界の改革を

東アジア・アセアン経済研究センター(ERIA)
マネージングディレクター
アラジン・リロ 氏

ASEANの観光はパンデミックから見事に回復したが、市場ダイナミクスと業界構造が大きく変わった。サステナビリティを基本に安全面が重視され、一層のデジタル化が求められている。政府および観光地はこうした市場の変化と多様なニーズをくみ取り、適切なメッセージを発信し、価値ある旅行を創出しなければならない。地域改革、そのためのガバナンス、市場動向に合わせた情報の共有などが重要な要素だ。



地域の発信と戦略的投資でバランスのとれたツーリズムに

スロベニア共和国
経済観光スポーツ省 観光局長
ドゥブラウカ・カリン 氏

現在の観光においては、数の実績を追うことよりも付加価値の創造が重要になってきている。我が国には小規模な観光関連事業者が多く、これは地域について発信する際には効果的だ。同時に、特にウェルネスや長寿などをキーワードとした観光インフラや商品への投資を促進することで、観光の一極集中を避けて分散を試み、地域に資するバランスのとれた観光を推進する必要がある。観光による影響を測るためのデジタル技術も重要だ。



ETC各国が一体となり地域と時期の分散を

ヨーロッパ観光委員会(ETC)
マーケティング・広報ディレクター
ミゲル・ガジェゴ 氏

ヨーロッパの面積は小さいが世界の旅行者の半数に当たる7億人の旅行者が訪れ、その多くが7～8月に集中するオーバーツーリズムに見舞われている。環境、文化、住民を守るために地域と旅行時期の分散を図り、CO₂削減の移動手段を推進したい。旅行者と住民のバランスをとりながらサステナブルで価値のある旅を生み出すべく、ETC36カ国は一体となって「Unlock Unexpected Upgrade(意外なより良い旅へ)」キャンペーンを展開する。



観光政策「Thrive 2030」が目指す持続可能な観光

オーストラリア
観光補佐大臣
ニータ・グリーン 氏

経済的・社会的・環境的課題に向き合いつつ、質の高い体験を提供し続け、国際競争力を維持することが今日の観光には求められる。これを達成するための観光政策が「Thrive 2030」だ。2020年からの10年で訪豪客支出を2300億豪ドル増やし、このうち40%を地方に落とすことが目標。すでに観光業の雇用の51%が地方で創出されている。また、政府は「観光経済のための国家持続可能性枠組み」を発表。国全体で持続可能な観光に対する認識を共有する。



観光が地域変革を起こすための「3つのD」

アドベンチャー・トラベル・トレード・アソシエーション(ATT A) プレジデント
グスタヴォ・ティモ 氏

観光業は「3つのD」、すなわち、多様化(Diversification)、分散化(Dispersion)、深化(Deepening)を目指し、気候変動対策の推進、文化的尊重、包摂的な経済成長の実現を後押しする力となるべきだ。特に地域の女性や若者、起業家が直接恩恵を受けることのできる仕組みが必要。ATT Aの最新の調査によると、市場においても自然・文化・体験への需要は高い。観光の成長が地域の健全性・レジリエンス・長期的持続可能性と調和することで地域変革が起こる。



多様性が最大の競争力10年で地域観光政策を前進

パナマ共和国
観光庁長官
グロリア・マリア・デ・レオン・スビエタ 氏

中米地域はそれぞれ文化・自然・伝統などすべてが異なり、その多様性が最大の競争力だ。中米観光評議会の議長国として、多様化を包摂的に進め、安定した雇用と機会を生み出すことを目指している。今後10年で地域観光政策(PRETUR 2025-2035)を前進させ、競争力とレジリエンスを強化する共通の枠組みを築く。また最大の資産は、SICA地域(中米統合機構)の「人材」だ。人への投資は地域の未来への投資につながっていく。



DXの恩恵を観光業に新しい目的地の開発に生かす

ウルグアイ東方共和国
観光副大臣
アナ・クラウディア・カラム 氏

米州開発銀行(IDB)の協力のもと「Innovation and Development of Tourism 4.0 in Uruguay」戦略を行っている。これはDXを特に観光業に広げていこうというもの。エコシステムを構築した上で、デジタルソリューションを観光マネジメントにどのようにつなげるかが目標だ。パイロットプログラムも始まっており、今までデジタルの恩恵を得ていなかった新しい目的地の開発が可能になるだろう。



地方への誘客と持続可能な観光で訪日客増の課題に対応

日本国
国土交通大臣政務官
吉井 章 氏

訪日外国人旅行者が好調な一方、一部地域の過度な混雑やマナー違反の問題が生じている。これらの課題に対応すべく、地方部への誘客や持続可能な観光を推進している。地方への分散化は、地域観光づくりの司令塔となる組織、DMOを中心に地域全体の活性化を図っていく。また持続可能な観光実現には、観光客受け入れと住民の生活の質を両立できる取り組みが重要だ。観光客向けの移動手段の導入、需要の分散、平準化などを進めていく。

クロージングトーク



競争力と需要偏在の解消に欠かせぬ多様性

世界観光機関 アジア太平洋地域事務所 所長
金子 正志 氏

本日は地域の観光振興について「変革」をキーワードに2点を議論した。持続可能で魅力的な観光地には地域の特色と競争力を維持すると同時に、多様な観光資源の提供が不可欠であること。地域や時期の需要偏在の解消にも、観光地の多様化は重要だ。次に、持続可能な質の高い観光には人材不足の克服が必要な点。人材育成とデジタル技術の導入が、この課題解決のための相補的な施策で、その相乗効果は観光サービスの質的向上にも資するものだ。

国内・海外出張は
セントレアから！
フライ・セントレア・パートナーズで
出張をより便利に快適に！

フライ・セントレア・パートナーズとは

中部エリアの企業・団体様と共に、中部国際空港の活性化と利便性向上を目指し、ビジネス渡航・国内出張においてセントレア発着便を積極的にご利用いただく取り組みです。[賛同企業数581社(6月末時点)]。

入会費・年会費無料

賛同企業・団体募集中

会員限定キャンペーン実施中！

詳しくは
こちら▶



10/31
[金]
—まで—

ラウンジで一息！
海外空港でも使える
ラウンジ券進呈！

概要 ラウンジ利用券を1回分
プレゼント！(通常50ポイント要)
条件 セントレア発着の国際線を往復利用し、
海外乗継で最終目的地へ向かう方が対象

ついに国内線にも拡大！
国内出張のご利用で
ギフト券500円分進呈！

概要 ギフト券(OMIYAGe-Gift)
500円分をプレゼント！
条件 セントレア発着の福岡線もしくは仙台線を
ご利用の場合(往復でのご利用が条件)

※キャンペーン①②共にフライ・セントレア・パートナーズご賛同企業・団体の従業員様が対象となります。
※各諸条件は上記二次元コードからご確認ください。

中部国際空港利用促進協議会

centrair

第9回「ジャパン・ツーリズム・アワード」

「酒蔵ホテル体験」と「バス事業DX連携」に大賞
200件上回る応募、“ツーリズムのチカラ”で地域産業・文化の持続発展に貢献

「ジャパン・ツーリズム・アワード」とは、ツーリズムの発展・拡大に貢献した、国内・海外の団体・組織・企業・個人の持続可能で優れた取組を表彰するものです。ツーリズムEXPOジャパンでは、ツーリズムへの理解を進めると同時に、この取組をモデルとしてツーリズムのさらなる発展に寄与することを目的とし、受賞取組を広く社会・世界に発信していきます。今回の応募件数は国内外から213件(自薦198件、他薦15件)で、昨年の119件を大幅に上回る結果となりました。



■国土交通大臣賞

●株式会社KURABITO STAY **ブース番号E-001**
酒蔵から始まる、地方創生と日本酒ツーリズムの可能性を創る
酒蔵ホテル®「KURABITO STAY」

【選考ポイント】外国人旅行者にも人気の高い日本酒。酒蔵を切り口に地域全体で観光資源としての磨き上げを図る持続可能な地方創生モデルとして、文化継承への貢献も加え、高く評価した。本格的な蔵人体験に加え、蔵人宿舎をリノベーションした宿泊施設の提供などを通して、体験価値と付加価値の向上を実現し、実績につなげている点が素晴らしい。今後は全国の地方創生モデルとして波及効果を期待したい。

※「学生が選ぶジャパン・ツーリズム・アワード」とのダブル受賞

【受賞者コメント】この取組みが最高賞を受賞できたことは、佐久の酒蔵や地域の皆様と共に築いてきた歩みそのものの成果だと考えています。観光地ではない佐久地域での挑戦は無謀と思われてきましたが、この栄えある受賞が日本各地の地方の希望の光となり、地域活性化へツーリズムの力が貢献できるということをたくさんの方に知っていただける機会となれば幸いです。私たちのミッションは「百年後も誇れる故郷を守り伝える」こと。そのために「蔵人体験」という新しい文化体験を通じて、日本の地域の可能性を可視化し、これからも地方の魅力を世界に届けてまいります。

■経済産業大臣賞

●ひがし北海道観光DXプラットフォーム **ブース番号C-018**
(阿寒バス・斜里バス・網走バス・根室交通・北海道拓殖バス・NECソリューションイノベータ・ひがし北海道自然美への道DMO・釧路観光コンベンション協会・北海道エアポート)

ひがし北海道・交通事業者がつなぐエリアまるごと観光DX

【選考ポイント】広域連携によるデジタル基盤の共通化と観光DXの取組として優れた事例。多くの交通事業者が連携・共創し、経営の効率化と利用者の利便性向上を図りつつ新たな観光需要を取り込んでおり、二次交通の課題を抱える他の地域にとっても再現性のあるモデルとして高く評価した。地域全体のコミュニティ形成にも繋げており、持続可能な観光及び地域活性化に貢献している点も素晴らしい。

【受賞者コメント】このたびは大変光栄な賞をいただきまして、ありがとうございます。バス事業者連携により、路線バスや定期観光バスを使った広域な観光周遊ルートの提案、および観光に携わる地域の事業者様との連携を、Web販売の推進によるDX化とバス情報だけではなく観光情報を集約したWebサイトを構築し、Web展開の遅れていた商材も地域まるごと推進することで、安心して観光していただける仕組みを構築することができました。今後も連携の輪を広げ、より広くバス利用と観光を促進する活動に努めてまいります。

●観光庁長官賞

●愛知県立足助高等学校 観光ビジネスコース
「高校生トラベル®」ブランドを核とした関係人口創出と観光産業人材育成、持続可能な観光推進モデル

●株式会社シークルーズ
人口2.3万の街で地場企業投資60億円を生み出す！
「鉄道×航路が地域を変えたデザイン&ストーリー」

●株式会社wondertrunk & co.
富山を世界のデスティネーションへ：
地域一体のモダンラグジュアリー戦略の推進
～富山県が4年でNY Timesの行くべき52の場所に選出されるまで～

●実行委員長賞

●トルコ共和国大使館文化観光局 /
ターキッシュエアラインズ
南東トルコの需要創造への取り組み

●UN Tourism 特別賞

●ウズベキスタン国家観光委員会 **ブース番号 F-039**
(TOURISM COMMITTEE OF THE REPUBLIC OF UZBEKISTAN)
観光村プロジェクト 一貧困削減と持続可能な観光開発～
●認定NPO法人みちのくトレイルクラブ **ブース番号 C-039**
みちのく潮風トレイル～海を見ながら歩ける
1,000キロ みんなで育てる長く歩く旅の道～

●学生が選ぶジャパン・ツーリズム・アワード

●株式会社KURABITO STAY **ブース番号 E-001**
酒蔵から始まる、地方創生と日本酒ツーリズムの可能性を創る 酒蔵ホテル®「KURABITO STAY」
※「国土交通大臣賞」とのダブル受賞
●株式会社JTB 高松支店 **ブース番号 E-001**
「クセモノは地域のタカラモノ」
SICSサステナブルラウンジ
※「審査員特別賞」とのダブル受賞

◎審査委員特別賞

- 北海道エアポート株式会社 釧路空港事業所
滑走路から見る満天の星と航空灯火 **ブース番号C-018**
- 伊勢志摩フィルムコミッション
伊勢志摩フィルムコミッションのスクリーンツーリズム
～地域と作品の架け橋(聖地巡礼から海外発信まで)～
- 株式会社郡中トラベル
「交通・観光連携型事業(地域一体となった観光地・観光産業の再生・高付加価値)」計画
- 一般社団法人 美浜まちらボ
野間灯台登れる化プロジェクト **ブース番号D-003**
- 一般財団法人 矢掛町観光交流推進機構
限界集落におけるキャンプ施設と一時避難所の運営
- 株式会社金沢アドベンチャーズ
復興支援と持続的な観光地づくりを目指す「行かないと!能登」旅して応援バスツアー
- 株式会社JTB 高松支店 **ブース番号E-001**
「クセモノは地域のタカラモノ」 SICSサステナブルラウンジ
※「学生が選ぶジャパン・ツーリズム・アワード」とのダブル受賞
- 一般社団法人ツーリズムとよた **ブース番号D-015**
市民参加・全国発着連携による着地型豊田市ユニバーサルツーリズムの推進
- 平戸市アルベルゴ・ディフーズ推進協議会 **ブース番号C-053**
アルベルゴ・ディフーズ推進事業の取り組み
- 喜入子育てコミュニティKADAN
草刈りツーリズムプロジェクト
- SUZU GROUP(有限会社 寿々瀧)
新潟の日常を編集して伝える、地域の風土を味わうジオ・ガストロノミーツーリズム
- JR西日本グループ、KNT-CTホールディングスグループ、株式会社クオラス、
福井銀行グループ、京福バス株式会社 **ブース番号D-029**
福井エリアの地域課題解決のための「新感覚XRバス WOW RIDE いこっさ!福井号」の導入

- THE TOKYO PASS -Culture プロジェクト(事務局:株式会社丹青社)
東京都内での文化観光をより快適・豊かにするための訪日外国人向けサービス
「THE TOKYO PASS-Culture」
 - Smile∞Ribbon(スマイル∞リボン)
神秘的な光・海ホテル!! 淡路島の安全なビーチで「世界初!ココだけ!の海ホテルショー」を開催!
 - 佐賀県関係人口創出チャレンジ事業協議会 **ブース番号C-053**
ロマシング佐賀10周年
 - 株式会社JTB、一般社団法人次世代教育ネットワーク機構 **ブース番号E-001**
全国で地域観光DX人材育成のための学びの場を提供、地域の中高生がデータを駆使して地域の未来を切り拓く!～未来探究ゼミナール・未来探究祭～
 - 八女商工会議所 **ブース番号C-053**
八女福島観光プロジェクト～八女茶・地域伝統産業×古民家による体験&滞在型観光の創出～
 - 琵琶湖疎水沿線魅力創造協議会 **ブース番号E-029**
現役のインフラとして産業・文化を支える「琵琶湖疎水」の沿線魅力の創造と観光の分散化
 - 株式会社瀬戸内しまなみリーディング **ブース番号C-109**
「国指定史跡能島城跡上陸&潮流クルーズ」無人島上陸5000人
～未来へ紡ぐ「現地ガイドの情熱」と「地域連携」～
 - 佐賀県フィルムコミッション **ブース番号C-053**
マレーシアへのロケ誘致活動及び観光誘客について
 - 株式会社JTB、アサヒビール株式会社、ニッカウヰスキー株式会社、青森県弘前市
ひろさき緑農プロジェクト～弘前市のりんご産業支援を通じた地域活性化を目指して～
 - 遠野ふるさと村 **ブース番号D-029**
遠野ふるさと村 どべっこ祭り
 - 一般社団法人SOE
新潮流:「伝統×異業種」が育む、持続可能な地域のリジェネラティブ・ツーリズム
- は受賞団体や取組が紹介されているブースです。

上記ほか、14の取組が入賞を受賞しています。詳しくは、こちらからご覧ください。

